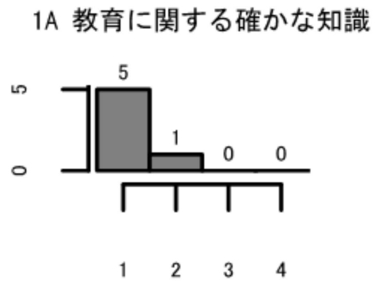
聴覚言語障害コース

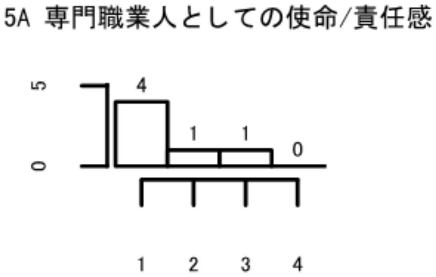
「聴覚障害児の教育課程」

教育学部　　立入　哉

1. 授業の目的と内容

本講義は，聴覚障害児教育の大枠を知り，もって聾学校教員としての資質を備えられることを目的とした授業である。具体的には聴覚障害児教育の歴史、教育方法の変遷、聾学校教育の特徴、幼児児童生徒の各発達期順に教育課程論を展開している。



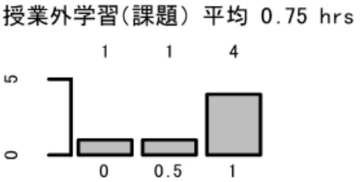
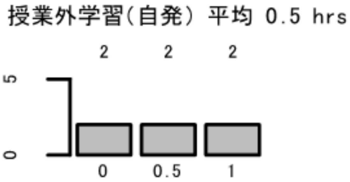
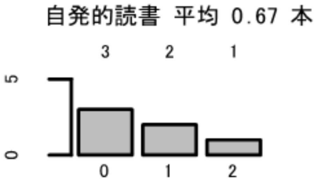


2. 授業内容とDPの対応に関する調査から

１）授業の評価に関して

聴覚障害児教育に関する基礎的な段階（免許法必修科目の最初の科目）であるため、知識・理解を求める内容が多い。このため、１Ａ：教育に関する確かな知識の項は平均で 1.2 と高い数値であった。また、本講義を通して、５Ａ：専門職業人としての使命／責任感の項も 1.5 と期待していた数値を得られた。本講義は発達障害コースの学生も受講しているが、そうした学生の一部には、聾教育への関心と興味が十分深められない者もおり、課題と思っている。

２）授業時間外学習の促進

(1)授業ごとのプレゼンに、「Q項目」という行を挿入している。「Q項目」については、授業中に解説せず、時間外学習として自分で調べるよう促す項目である。そして、次週の(毎回の)小テストでは、その「Q項目」に関する問題を出題している。しかし授業外学習（課題）は平均 0.75 時間、時間外学習（自発）は 0.5 時間に留まった。

(2) さらに授業に関係する書籍を複数冊用意し、研究室のドア前に置いておき（写真)、自由に持って帰って読むようにもしている。これについては最終試験で配置した書籍の内容に関する問題を出題すると予告し、時間外学習を促している。後期全体で５冊の書籍を紹介したものの、自発的読書は 0.67 冊であった。今後、、動機をいかに高めるかが課題と思った。